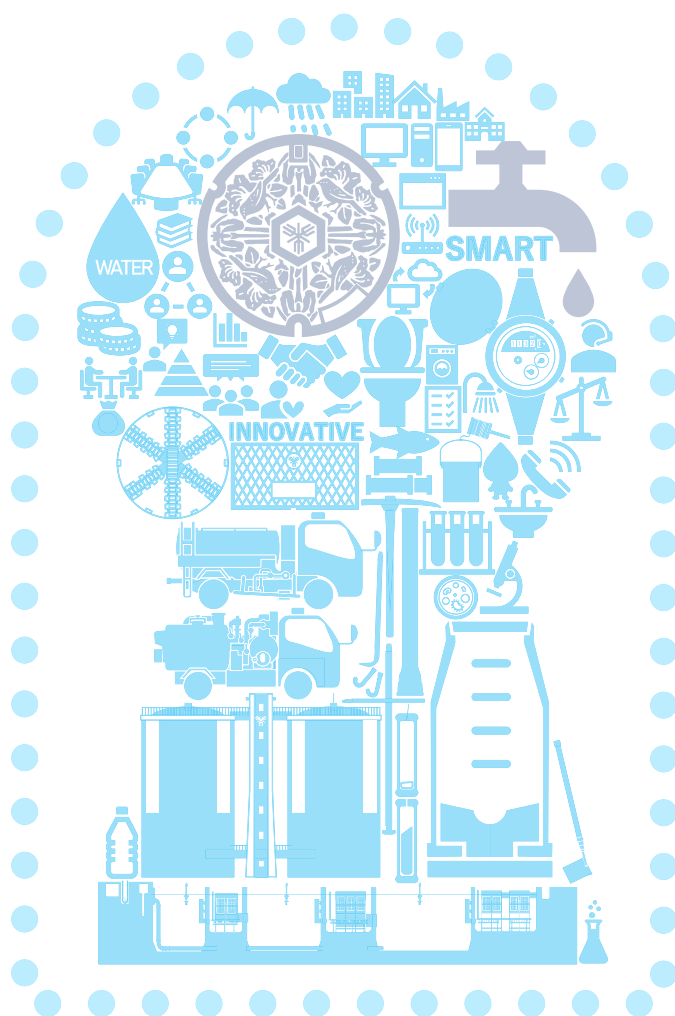
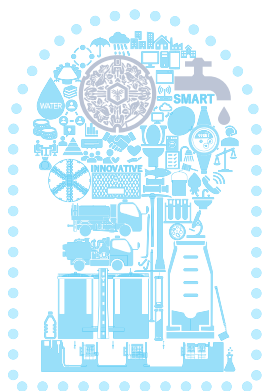


堺市上下水道事業 經營戰略

2023－2030





本冊子の表紙では、仁徳天皇陵古墳に代表される前方後円墳をモチーフにしています。



この「すいちゃん」のシルエットも隠れてます。



堺市上下水道局
マスコットキャラクター
すいちゃん

目次

はじめに		
経営戦略に込める想い	1	
堺市上下水道局の理念	2	
01 経営戦略の策定について		
策定の趣旨	3	
経営戦略の位置付け	5	
経営戦略の計画期間	6	
計画の構造	7	
02 堺市上下水道の現状と課題		
水道事業の現状	9	
下水道事業の現状	11	
上下水道事業を取り巻く社会情勢	13	
上下水道事業の抱える課題	17	
03 経営戦略のゴールと施策体系		
経営戦略のゴールと施策体系	21	
04 各政策における施策と事業		
政策01 市民の健康と快適な暮らしの確保	23	
施策01 良質な水道水質の維持	24	
施策02 安全で良好な水環境の維持	25	
施策03 戦略的な上下水道施設の管理	26	
TOPIC01 水道施設の最適化・更新	27	
TOPIC02 下水道施設の最適化・改築修繕	29	
政策02 災害時の飲料水と衛生環境の確保	31	
施策01 発災時における上下水道機能の確保	32	
施策02 浸水対策の推進	33	
施策03 上下水道の被災に備えた対策の推進（公助）	35	
施策04 自助・共助の活動促進	36	
TOPIC03 危機管理体制	37	
TOPIC04 下水道施設の耐震化	39	
TOPIC05 浸水対策の推進	41	
政策03 安定した経営の実現	43	
施策01 企業力の向上	44	
施策02 経営基盤の強化	45	
TOPIC06 財政計画について その1	47	
TOPIC06 財政計画について その2	49	
TOPIC07 広域連携と公民連携	51	
政策04 信頼される上下水道へ	53	
施策01 利用者の利便性の向上	54	
施策02 利用者との信頼関係の構築	55	
施策03 カーボンニュートラルへの貢献	56	
TOPIC08 DXの推進	57	
各政策における施策と事業の一覧	59	
05 経営戦略の実行に向けて		
経営戦略の進行管理	61	
経営戦略の中間改定	63	
06 事業24		
良質な水道水質の維持	65	
汚水の適正処理の推進	67	
公共用水域への汚水流出防止	69	
水道施設の維持修繕・更新・最適化	70	
下水道施設の維持・改築修繕・最適化	73	
水道施設の耐震化・バックアップ	75	
下水道施設の耐震化	77	
雨水整備の推進	79	
災害対応力の強化	81	
飲料水の確保	83	
自助・共助の啓発（平時の情報発信）	84	
災害情報の発信（非常時の情報発信）	86	
挑戦する人材の育成	87	
魅力ある組織の構築	88	
DX推進	89	
収支バランスの改善（水道事業）	90	
収支バランスの改善（下水道事業）	95	
広域連携の推進	100	
公民連携の推進	101	
包括的民間委託のモニタリング及び効果検証	102	
来庁レス・キャッシュレス・ペーパーレスの推進	103	
利用者との相互理解	105	
エネルギー使用量の削減	107	
再生可能エネルギーの利用推進	108	
07 資料		
策定の経過	資-1	
用語解説	資-3	

はじめに

経営戦略に込める想い

堺市の水道事業は1910年（明治43年）の通水開始から112年、下水道事業は1952年（昭和27年）の事業認可から70年を超える歴史を歩み続け、「都市活動」を支える重要な社会基盤へと成長し、市民の皆様の健康と暮らしを守り続けてきました。

この間、高度経済成長、近隣町村との合併、政令指定都市への移行などを経て、今や、80万人都市の上下水道として、全国でも有数の大規模事業体となりました。

しかし、市域の人口は2012年（平成24年）をピークに減少へ転じ、節水器機の普及なども相俟って、水需要は年々減り続けています。

これまで「つくり」続けてきた上下水道をこれからは「まもり」続けていく必要があり、今が「大きな転換点」と言えます。

持続可能な上下水道事業を次世代へ引き継ぐためには「つくり」続けてきた約1200億円の水道資産、約4600億円の下水道資産の老朽化対策、さらには激甚化・頻発化する自然災害や経営環境の変化など喫緊の課題にも的確に対応しながら上下水道システムを「まもり」続けていかなければなりません。

新たに策定した「経営戦略」は長期の方向性と長期達成目標からなる50年間の「未来像」を定め、そのもとに今後8年間で取り組む具体的な施策・事業をまとめたものです。

長期視点の展望を持つことで、事業の「大きな転換点」から先の未来においても方向性を見失うことなく安全で安定した経営を実現します。

一方この経営戦略を策定している2年の間にも、新型コロナウイルス感染症の拡大、ウクライナ情勢に端を発する燃料・物価の高騰など上下水道事業を取り巻く環境は、日々、めまぐるしく変化しました。

世界情勢は依然として予測不可能な状態にあり、今後8年間の中でも、「適時・的確な変革」が求められます。

堺は、古代に仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群が築造され、中世に会合衆と呼ばれる豪商たちによって国際貿易が行われ、海外との交易を通じて新しい文化や技術を取り入れてきました。近代には産業分野で発展を遂げるなど「ものの始まりなんでも堺」と謳われ、新しいことに果敢にチャレンジし、イノベーションを生み出してきた都市です。

令和の時代の上下水道局においても、未来に向け、「イノベティブで「SMART」な上下水道」をめざし、自ら時代に合った変革を遂げることで、都市の発展に貢献してまいります。

2023年（令和5年）2月
堺市上下水道事業管理者

出 来 明 彦

堺市上下水道局の理念

企業理念

都市活動を支え、 健康と暮らしを守る

— 市民に信頼され未来に続く堺の上下水道 —

堺市は、古代から中世・近代と、時代の流れにつれ、その姿を変え、発展してきた都市です。都市は、生き物です。常に一定の形を持つものではありません。産業や市民生活の形も、生命活動に合わせて常に変化し続けています。上下水道局は、動き続ける「堺」の躍動を「都市活動」という言葉に置き換え、「都市活動」を「安全な水」で支え、さらに「安全な水」を通して「健康と暮らし」を守ります。

経営理念

続けることで、続く！

— 変化を恐れず、創造・挑戦し続ける —

ひと昔前、高度経済成長期のころ、堺市では人口が増え続けてきました。それにあわせ、私たちは近代の上下水道を「つくり」続けてきました。しかし、今、堺市は人口減少社会の到来という時代の転換期を迎えています。一方、「安全安心なライフラインの確保」「将来に向けた快適な暮らしの確保」、この使命は変わりません。将来にわたって上下水道を「まもり」続ける必要があります。仁徳天皇陵古墳が1600年を経て先人から受け継がれてきたように、今、私たちは都市活動の変化に対し、自らが「変化を恐れず、創造・挑戦し続ける」ことで、市民に信頼される「堺の上下水道」を未来の人達へ引き継ぎます。

行動規範

し・ん・ら・い・Ki・Zu・Ku

「しみんなのため みんなので みらいに誇れる さかいの上下水道をki・zu・ku」を行動規範として掲げ、利用者から信頼される上下水道をめざし続けます。